

研究主題

生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造Ⅴ  
～コミュニケーション能力を培う英会話授業の具体化～

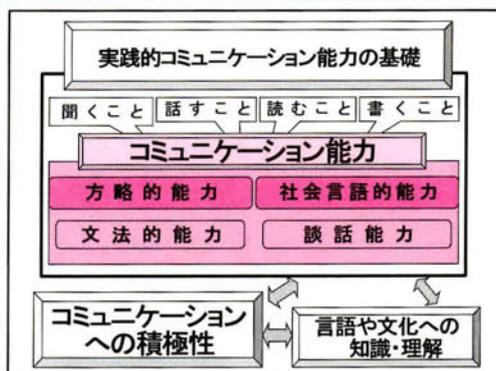


I 研究の立場	135
1 研究の歩み	135
2 本年度の研究の方向	136
II 本年度の研究内容	137
1 コミュニケーション能力を培う英会話授業とは	137
2 コミュニケーション能力を培う英会話授業創造の基本的な考え方	137
(1) 子どもの発達段階及び英語経験年数に応じた単元設定	137
(2) 四技能の関連性の明確化	138
(3) 臨場感と必要感を味わう学習活動の明確化	138
3 一単位時間における基本的な授業の流れの設定	139
4 一単位時間における教師の役割の明確化	140
III 授業プラン例	141
1 第6学年「外国で買い物をしよう」	141
2 第1学年「どうぶつ、だいすき」	143
IV 実践的コミュニケーション能力一覧表の再構成	145
V 研究の成果と課題	145
1 研究の成果	145
2 研究の課題	145

# I 研究の立場

## 1 研究の歩み

本校英会話部では、平成5年度から小学校における外国語教育に取り組み始め、小中一貫教育研究において小学校なりの「実践的コミュニケーション能力」を設定した。これは、聞く・話す・読む・書く能力（四技能）とコミュニケーション能力を互に関連させ実際のコミュニケーションを目的として英語を運用できる能力である。この実践的コミュニケーション能力を発揮する授業を構築するために、「コミュニケーションへの積極性」「実践的コミュニケーション能力の基礎（四技能とコミュニケーション能力）」、「言語や文化への知識・理解」という構成要素を相互に補完し合いながら高めることを重視してきた。



【図1 実践的コミュニケーション能力を発揮する授業】

そして、平成16年度から「生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造」を主テーマとし、表1のような研究を進めてきた。「生きたコミュニケーション」とは、英語を使ってコミュニケーションを行う際、場面や自他の立場を意識し思いをよりよく伝え理解し合おうとすることである。そのことにより積極性が高まり両者がより充実感を味わえることにつながる。【表1「生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造」継続研究】

VOL	サブテーマ・研究内容	明らかになったこと
I (H16)	「生きたコミュニケーション」の明確化	生きたコミュニケーションを楽しむ授業の構成要素 子どもの発達や意欲に沿った聞く・話す・読む・書く活動の目標 ①コミュニケーションへの積極性 ②実践的コミュニケーション能力（四技能とコミュニケーション能力） ③言語や文化への知識・理解 聞く・話す・読む・書く活動を位置付けた学習内容・学習方法
II (H17)	方略的能力を高める学習内容の設定	方略的能力を高める学習内容の構成要素 ①言語の使用場面 ②言語の機能 ③言語活動 ④言語材料 四技能と方略的能力とのつながりをもった学習内容 方略的能力を発揮させる活動として有効なもの ①ごっこ活動 ②作る活動 ③文字を書く活動 ④プレゼンテーション
III (H18)	社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定	子どもの発達段階毎に見る社会言語的能力発揮の様相 ①目的意識：コミュニケーションを図る目的【低学年から】 ②相手意識：相手との人間関係（性別・年齢・立場等）【中学年から】 ③場面意識：状況、場所など【高学年から】
IV (H19)	英語活動に必要な「言語の使用場面」の明確化	小学校なりの「言語の使用場面」の明確化 単元別に見る言語材料を明確にした学習内容の設定 臨場感と必要感を重視した指導方法の具体化 ①臨場感を高める場の設定 ②目的・相手意識や場面理解を問う教師の発問 ③コミュニケーションのよさを実感させる自己評価カード作成

これまでの研究で、小学校期におけるコミュニケーション能力を「方略的能力」と「社会言語的能力」と捉えた。そして、この二つの能力を子どもの発達段階に応じて表2のように位置付け、授業の中で発揮させる活動を展開してきた。

【表2 発達段階別に見るコミュニケーション能力一覧】

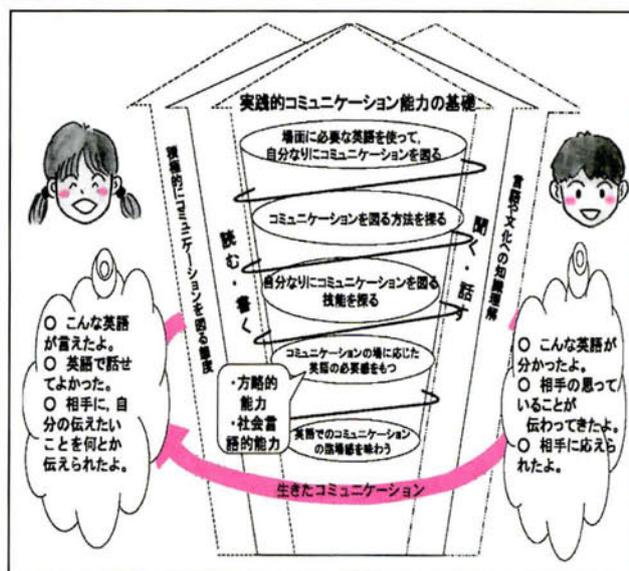
小学校期におけるコミュニケーション能力	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>方略的能力 (strategic competence)</b> コミュニケーションの過程で生じる様々な問題を切り抜け、コミュニケーションをうまく進めていくことができる能力	協力ストラ テジー	推測ストラ テジー	言い換えス トラテジー
<b>社会言語的能力 (sociolinguistic competence)</b> 人間関係や発話の状況に応じ、適切な表現を選択して表現できる能力	目的意識	相手意識	場面意識

## 2 本年度の研究の方向

これまでの研究及び授業実践から、次のような課題解決が必要であることが分かった。

- 英語によるコミュニケーションへの積極性を高める授業を行っていくために、有効な指導方法をより充実させていく必要がある。
- 小学校なりの「言語の使用場面」を踏まえ、子どもの発達段階や英語経験年数を考慮し全学年における単元配列を見直す必要がある。

また、小学校学習指導要領案 (H20. 2. 15) の中では「コミュニケーション能力の素地」を養うことが求められている。そこで、本年度は、コミュニケーションへの積極性の向上を目指し、「コミュニケーション能力」に焦点を当て、子どもの発達段階や英語経験年数に応じた授業の在り方を探っていくことにする。なぜなら、実際のコミュニケーション場面において必要な英語を運用する力を育成するために、子どもの実態に応じて楽しく展開する授業の在り方を考えることで、図2のような生きたコミュニケーションを楽しむ子どもの姿につながると思ったからである。



【図2 生きたコミュニケーションを楽しむ子どもの姿】

これは、小学生が体験する FLEX(Foreign

Language Experience/Exploration：外国語体験活動) の具体化にも通ずるのである。

以上のことを踏まえ、これまでの研究内容の具体化を図ることで「生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造」という5年間の研究のまとめとしたい。

そこで、本年度は以下のようなテーマを設定し、子どもたちがコミュニケーション能力を確かに培う授業づくりに向けて、これまで明らかにしてきた研究内容を授業にどう生かしていくか具体的に考えていきたい。

## 生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造Ⅴ ～ コミュニケーション能力を培う英会話授業の具体化 ～

## II 本年度の研究内容

### 1 コミュニケーション能力を培う英会話授業とは

本校の英会話授業では、「楽しみながら英会話を行うこと」と「積極的に英語を使うと子どもを育成すること」を重視している。子どもたちは英語を記憶するのではなく、たくさん聞き、まねしながらでも発話して見ることによって、自然に英語独特のリズムや音に慣れ、場面に応じた適切な英語の運用の仕方を身に付けようとする。そして、楽しい活動の中で十分に慣れ親しんだ英語で自分の思いが伝えられた喜びを味わい、コミュニケーションを図ることができたことへの充実感を味わうのである。

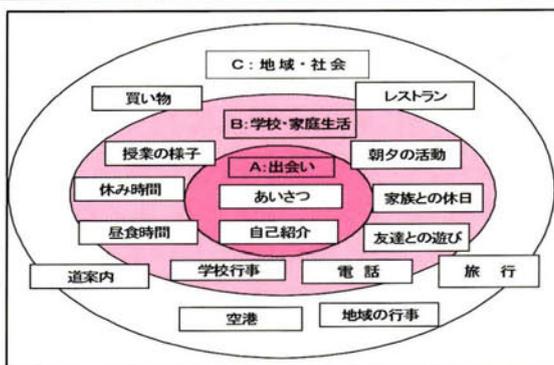
しかし、小学生の発達段階を考えると、コミュニケーションを図る際に、十分な英語を獲得していなかったり、相手の立場や状況を常に適切に判断することが難しかったりして、コミュニケーションを継続することが困難な場合も多くある。そこで、そのような状況を切り抜けるために、方略的能力や社会言語的能力を発揮させることが必要になるのである。

つまり、「コミュニケーション能力を培う英会話授業」とは、子どもの発達段階と英語経験年数を十分に配慮して、方略的能力や社会言語的能力を発揮させる授業である。

### 2 コミュニケーション能力を培う英会話授業創造の基本的な考え方

(1) 子どもの発達段階及び英語経験年数に応じた単元設定

単元設定は小学校における「言語の使用場面」を踏まえ自分を取り巻く環境が広がるように構成することが大切である。(図3参照)そこでは表3のように同じ単元でも発達段階に応じて、また同じ学年でも英語経験年数によって、コミュニケーションの在り方を考える必要がある。なぜなら子どもがその場面に必要な言語材料を繰り返し用いたり増やしたりしていく中で、求められるコミュニケーション能力を発揮する様相も変容していくからである。



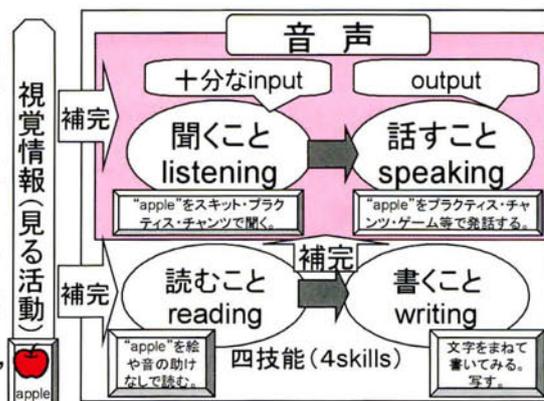
【図3 小学校における「言語の使用場面」】

【表3 発達段階別にみる同単元授業の様子】

学年	第1学年(経験年数1年目)	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
配慮事項	楽しさ	会話表現への深まり			生活への転移・発展	
単元例	おみせやさん(1年)	買い物ゲームをしよう(4年)			外国で買い物をしよう(6年)	
買い物場面	 May I help you?	 Cheaper, please.			 Change, please. Here you are.	
使用する言語材料例	Here you are. How much? これらの英語も使いつつ	Anything else. Please come again. これらの英語も使いつつ			I'm just looking. How about this one?	
コミュニケーション能力の発揮	絵や具体物、ジェスチャーを用いて発話している。	相手に分かりやすく自分の意志を伝えるように考えて発話している。			買い物でよく見られる状況を自分たちで設定して話している。	
子どもの感想	いろいろなえいごをつかっておみせやさんができたのたのしかったです。	お客さんとして、「値段を安くして」と英語で話すことができるようになってうれしかったです。			客として欲しいものを英語で尋ねたり店員としてお客さんのお願いに応えたりして満足です。	

(2) 四技能の関連性の明確化

コミュニケーション能力を培うためには、実践的コミュニケーションの基礎である四技能を高めていく必要がある。そこで四技能の関係性を図4のように設定した。小学校においては、音声（聞く・話す）を中心に授業を行う上で、十分なインプットを経てアウトプットすることが求められる。その音声を読む・書く活動は補完し、さらに見る活動が四技能を補完する立場にある。



【図4 小学校外国語活動における四技能の関わり方】

小学校6ヶ年で学習する際、1・2年では音声で英語に十分慣れ親しませ、3年から読む活動、4年から書く活動を位置付けると、子どもの知的好奇心も高まり、コミュニケーションへの積極性も見られる。

それ故、発話の対象を絵や写真、文字などで見せる際、それらの組み合わせを子どもの発達段階や英語経験年数に応じて適切に提示し変えていくことも必要である。

(3) 臨場感と必要感を味わう学習活動の明確化

コミュニケーション能力を培うには、コミュニケーションを図る実生活において、臨場感（どのような場面なのか。）と必要感（そこではどのような英語が必要なのか。）を子どもたちに味わわせることが必要である。そのためには、授業でスキットを第1学年から行うことが効果的である。



スキット1では写真1のように、本時の場面を想起させる拡大絵や実物・具体物を示すことで、

【写真1 「くだもの、だいすき（1年）」における環境設定】

子どもたちの学習意欲を高めるとともに必要な英語を焦点化することができる。スキット2では、本時の学習内容に応じてコミュニケーション能力を発揮させるために、コミュニケーションギャップを表す。具体的には、「方略的能力」を発揮させる場合、スキット1と同じシチュエーションの中で、新たに用いる言語材料が分からない時にどのような方法でALTに尋ねるか考えさせる。「社会言語的能力」を発揮させる際は、HRTが相手との立場に配慮不足な面を示し、それ故ALTが困ったり怒ったりする場面を演じ、その理由や改善策を子どもたちに話し合わせる。このスキット1・2の関連付けを

【表4 活動1と活動2の関わり方】

発達段階や英語経験年数に応じて適切に組み込むことが必要である。また、必要感のある英語により慣れ親しませるために、プラクティスやリズムチャンツにおいて体を動かしながら取り組むことも効果的である。さらに、表4のように、活動1（ゲーム①）で扱った英語に別の英語を付加して活動2（ゲーム②）を行ったり活動2のスキットづくりを見越して活動1のゲームのルールを決めたりすることも臨場感・必要感を味わう上で大切であると考えられる。

	活動1	活動2
パターン1 (主に低学年や経験年数1年目)	ゲーム活動① (例) Hot potato game 本時で必要な英語の単語を使った遊び apple, orange, banana...	ゲーム活動② (例) Magic word game 新たな英語を加えた遊び C1: What's this? C2: It's an apple.
パターン2 (主に中・高学年や経験年数2年目以降)	ゲーム活動 (例) Card get game カードを媒介にして、互いの意志を伝え合う遊び C1: Apple, please. C2: Here you are. C1: Thank you.	スキットづくり (例) おみせやさんごっこ C1: May I help you? C2: Apple, please. C1: Here you are. C2: Thank you. C1: How much? C2: 10 dollars, please.

3 一単位時間における基本的な授業の流れの設定

先に述べた考え方を踏まえた上で、コミュニケーション能力を培うために、英会話授業の一単位時間における基本的な流れを表5のように設定した。

【表5 一単位時間における基本的な授業の流れ】

過程	四技能	主な学習活動とねらい・意義	方略的能力	社会言語的能力
意欲をもつ	話す ↔ 聞く (相互関連)	<b>1 Greeting (始まりのあいさつ)</b> ・ 授業の開始を英語で行うことで、本時の学習への意欲付けを図る。		低 中 高
	聞く(見る)	<b>2 Skit 1 (スキット1)</b> ・ 本時の学習場面における臨場感と必要感を味わわせる。	絵や表情, ジェスチャーから推測して	目的 相手 場面
	聞く(見る)	<b>3 めあての確認</b> ① どんな場面か。 ② どんな英語が必要か確認させる。(音声のみで)	絵や写真, 具体物等から推測して	目的
	聞く(見る)	<b>4 Challenge (ALTと挑戦)</b> ・ コミュニケーションへの意欲付けを図ると共に、現段階で自分たちに不足している英語に気付かせる。	発話も動作もまねて 絵や写真, 具体物, ジェスチャー等を見て	
つかむ	話す ↔ 聞く (発音を(見る)まねる)	<b>5 Practice(本時で取り扱う言語材料の発話に挑戦)</b> ・ ネイティブな発音を聞き、口の形、舌の位置などALTのまねをしながら発話させる。この過程で、日本語では区別しにくい“l”と“r”の音の違いや複数形の“s”など文法的要素にふれることで、子どもの発音をネイティブに近付ける。	発話も動作もまねて 絵や写真, 具体物, ジェスチャー等を見て	
	話す ↔ 聞く (まねる) (見る)	<b>6 Rhythm chants(リズムチャンツ)</b> ・ 音や曲などに合わせて体を使ってネイティブな発音を真似ていくうちに、発話のアクセントや英語独特のリズムにも自然と慣れ親しませ、必要感のある英語の発話を自然に導くことができる。	発話も動作もまねて ジェスチャーだけを見て	
	話す・書く (まねる) 聞く	<b>7 Activity 1(活動1)</b> ・ 楽しみながら必要感のある英語に十分に慣れ親しませる。	発話も動作もまねて ジェスチャーだけを見て	目的 相手
挑戦する・広げる	聞く(見る)	<b>8 Skit 2(スキット2)</b> ※ 方略的能力を発揮させる場合と社会言語的能力を発揮させる場合がある。  (例) 方略的能力を発揮させる場合 H:HRT A:ALT C:児童 A:What animal do you like? H:「白熊」の英語が分からない。みんなならスネラー先生(ALT)にどうやって「白熊」を英語で何というか尋ねますか?(※この発問は日本語で行う。) C1:白熊の絵を描いて尋ねる。C2:白熊のジェスチャーをして尋ねる。 C3:「white」や「bear」など知っている英語で言い換える。C4:日本語で「白熊」	スキット1と比較して 絵や写真, 具体物等を用いて ジェスチャーで分からない時は、母語や外来語に言い換えて	目的 相手 場面
	話す・書く (尋ねる) 聞く	<b>9 Activity 2(活動2)</b> ・ 本時で学び得たことを生かして自己表現をさせる。場面に応じて自分に必要な英語を発話するために、自ら積極的にALTに関わるようにさせる。 ※ 各自のコミュニケーション能力が発揮。	絵や写真, 具体物等を用いて ジェスチャーで母語や外来語に言い換えて	目的 相手 場面
振り返る	聞く(見る)	<b>10 Presentation(発表)・まとめ</b> ・ 活動2でつくったスキット等の発表を行い、同じ場面でも友達はどんな言語材料を増やしたどのようなコミュニケーションを図ったか比較させる。		目的 相手 場面
	話す ↔ 聞く	<b>11 Reflection(学習の振り返り)</b> ・ 学習内容や発達段階に応じて、質問や感想交流、自己評価カード等の評価方法を選択させる。 ・ 子どもに学習の成就感・満足感を味わわせる。 ・ 観点は「コミュニケーションへの積極性」「言語や文化への知識・理解」「方略的能力・社会言語的能力」	振り返って	
	話す ↔ 聞く	<b>12 Ending(終わりのあいさつ)</b> ・ 英語で行い、次時の学習への意欲付けを図る。		

4 一単位時間における教師の役割の明確化

コミュニケーション能力を培う上では、HRTとALTがそれぞれの特性を発揮しながらティームティーチングを行うことが効果的である。HRTは、学級の実態をよく把握しており、子どもたちとALTとのコミュニケーションを支援することができる。また英語を積極的に使うモデルとなることで、子どもたちの英語に対する不安を取り除くこともできる。そこで、表6のように、一単位時間におけるHRTの働きかけや取り扱うClassroom Englishを明確にした。このことによって、ALTとの役割が分担され、教師同士のコミュニケーションも効果的に図れるようになった。JTEによる授業を行う場合は、学習状況に応じてHRTとALTの両方の立場で、英語と日本語を使い分けながら子どもと関わるのが効果的である。 【表6 一単位時間における教師の役割】

	HRTの働きかけとClassroom English	ALTの働きかけ
あいさつ	Stand up, please. Stand straight. Let's begin our English class. Ok. Sit down, please. It's question time! Listen carefully. ○ 発表者には“I'm fine.”ではなく自分の体調を詳しく表現するよう促す。 ○ 全員に「聞くこと」の大切さを語る。 ○ 発表者とALTとの会話内容について、全体に尋ねる。	Good morning (afternoon) everyone. How are you, today? I'm fine, too. Thank you. ○個人的に指名して対話する。 ○様々な話題を質問する。
スキット1	Please watch and listen. Listen carefully. ○ 臨場感を高めるために拡大絵や具体物等あらかじめ掲示しておく。 ○ オーバーな演技を行う。	○役割演技
めあて確認	○ スキット1終了後の発問(日本語で)「今日はどんな場面かな?」「この場面ではどんな言葉が大切かな?日本語でも英語でもいいよ。」 ※ 臨場感と必要感を高めさせて今日の授業の意欲付けを図る。	
挑戦	Who wants to try? Any volunteers? ① 1人対ALT ② 子ども同士 ※ 補助	①相手をする。②補助
習熟	Let's practice. ○ ALTの発話の補説を日本語で行う。 (例)複数形の“s”唇や歯、舌の動き 等	Please watch my mouth, listen and repeat.
チャンツ	Let's do rhythm chants. What number do you like? ○ 番号希望者を指名する。○ リズムボックスをセットする。 ○ 拍を素早く察知し、タンブリンで拍を取りながら机間指導を行う。	○本時の言語材料をネイティブな発音で示す。 ○発話のモデルとなる。
活動1	Let's try ○○ . ○ ルールの説明の補説を日本語で行ったり、シミュレーションを行ったりする。	○ルール説明やシミュレーション、道具の受け渡し等を英語で行う。 ※一人一人と関わる。
スキット2	Please watch and listen. Listen carefully. ① 方略的能力 ○ スキットを行い、新たな言語材料を話題にして、英語が分からないと戸惑う演技を行う。「○○って英語で何というか先生にどんな方法で尋ねればいいのか?」 ② 社会言語的能力 ○ 目的・相手・場面いずれかの意識が欠けたスキットを行い、ALTの変容の理由を尋ねさせる。「なぜ先生は困ったのかな?」	○新しく出てきた英語の発音を子どもたちに教える。  ○状況に応じて、喜怒哀楽を表現する。
活動2	Let's try ○○ . ○ これまで学んだことが生かせる活動を設定する。	○ルール説明やシミュレーション、道具の受け渡し等を英語で行う。 ※一人一人と関わる。
発表	Who wants to try? ○ 活動2がスキットづくり等、自己表現の場合、発表させる。	○英語を使って子どもたちを称賛する。
振り返り	What did you like today? 「今日の学習は楽しかったか。」「今日学んだ英語や話せるようになった英語について一人で発表できる人!」など	○HRTから子どもの意図や内容を聞き英語で称賛する。
あいさつ	Stand up, please. Stand straight. That's all for today's class.	Good job. Good bye.

### III 授業プラン例

#### 1 位置とねらい

6年10・11月《ごっこ》

## 外国で買い物をしよう

#### 【5年 レストランゲーム】

- ・ レストランでの会話を想定し、ALTやHRT、友達とスキットをつくることができる。

- ・ 外国で買い物をしている場面を想定し、自分たちで必要なものを準備して、店を開いたり、買い物をしたりするスキットをつくることができる。
- ・ 道具やポスターに書きこむ文字にふれるために、ALTやHRTに自分なりの方法で尋ねることができる。

#### 【6年 とっさのひとつこと】

- ・ これまで学習した表現を使ってALTやHRT、友達とスキットをつくることができる。

#### 2 授業計画（6時間） (方) 方略的能力, (社) 社会言語的能力 言語材料 子どもの思い

過程	主な学習活動	言語材料, 子どもの思い
意欲をもつ	<p><b>I 買い物の場面を考えよう。</b></p> <p>1 外国で買い物をするスキット1を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国での買い物の場面だな。</li> <li>・ 買い物に必要な英語が使われたぞ。</li> </ul> <p>2 ALTとスキット1に挑戦する。</p> <p>3 買い物に必要な表現についてALTと発話する。</p> <p>4 ジェスチャーリズムチャンツをする。</p> <p>5 フリーズゲームをする。</p> <p>6 グループに分かれて、自分たちが開く店について話し合う。</p>	<p>A: May I help you? B: Jacket, please. A: Here you are. B: Oh it's too big! Smaller please. A: Here you are. B: Thank you. How much? A: 20 dollars. B: Here you are.</p> <p>客と店員がやりとりしている場面だ。楽しそうだよ。知らない英語でも何となく分かるぞ。</p> <p><b>【考えられる店】</b> camera, T-shirt, jeans, shoes, flower, food, watch, bag</p>
つかむ	<p><b>II 道具を作ろう。(2時間)</b></p> <p>1 店に必要な道具を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店の看板</li> <li>・ 品物カード</li> <li>・ チラシ</li> <li>・ お金 (札束, コイン)</li> </ul>	<p><b>【子どもが書いた英語例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Book store</li> <li>・ dog</li> <li>・ banana</li> <li>・ hat</li> </ul> <p>買い物に必要な表現を知るのは楽しいな。もっと知りたいな。</p>
挑戦する・広げる	<p><b>III 買い物ゲームをしよう。(2時間)</b></p> <p>1 買い物のスキット2を見る。</p> <p>2 自分なりに言いたい表現を考え、ALTやHRT、友達に尋ねる。(方)</p> <p>3 ALTやHRT、友達に教えてもらった表現を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この前、ジェスチャーで伝えたよ。</li> <li>・ 日本語で言ってみたよ。</li> <li>・ 絵カードを見せたら伝わったよ。(方)</li> </ul>	<p>H: 「先生はおつりくださいという英語が分かりません。どうすればいいかな？」 例①: 「おつりください。」と、なんとか日本語で伝えてみる。 例②: 両手で、おつりをもらおうとするジェスチャーをする。 例③: 知っている英語の表現(「Money, please.」等)を使ってみる。 A: Oh, change please.</p> <p>様々な方略を子どもたちから聞き出し、HRTがALTに尋ねます。</p> <p><b>【学んだ表現例】</b> What size? What color? Just looking. Do you have~? How much for all? Cheaper please.</p>
振り返る	<p>1 店グループとお客グループに分かれて、買い物ゲームをする。(方)(社)</p> <p>1 前時とグループを入れ替わり、買い物ゲームの続きをする。(方)(社)</p> <p>2 できたこと、学んだことを発表する。</p> 	<p>A: May I help you? B: Cap, please. A: Here you are. B: How much? A: 20 dollars. B: Cheaper please. A: 10 dollars. B: Here you are. A: Thank you.</p> <p>このようにして尋ねればいいのか。やってみたいな。</p> <p>英語の文字を使って、買い物に必要な表現ができたよ。</p>

【単元の特性】

買い物ゲームは本校では1年生から行っている。この学年では6年間の集大成として、これまで学んだ表現を使って自分たちで店の準備をし、店員や客の立場としてコミュニケーションが図ることができる。

書く活動を取り入れて

- 道具作りの際に、店のポスターや品物カードに文字を書く活動も取り入れてみましょう。小学生和英辞典を活用したり、外国のチラシ等をまねしたりと子どもたちは意欲的に取り組みます。分からないときは「〇〇先生（ALT）に聞いてみてごらん。」と進めることもHRTの大切な役割です。

板書、教材・教具、ゲーム活動のルール等

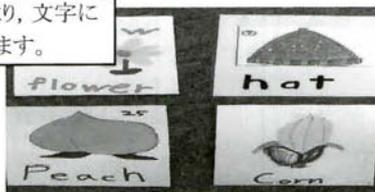


『フリーズゲーム』のルール

- 1 ALTが買い物に必要な表現を発話する。
- 2 子どもたちは、ALTの表現をまねしながら歩く。
- 3 ALTが「Freeze!」と言ったら動かない。
- 4 動いたら一回休みとなる。

それぞれの店にあった品物をハンガーにかけたり、机に並べたりして提示すると臨場感が表れます。

黒板に外国のお金の表をはり、文字にふれさせながらお金を作らせませす。



絵や文字を使って品物をかかせませす。

『買い物ゲーム』

【用意する物】

- ・お金、看板、品物カード

【ルール】

- 1 グループを店担当、客担当の2つに分ける。
- 2 店に品物カードを並べる。
- 3 買い物ゲームを開始する。
- 4 時間がきたら元のグループにお金やカードを返却する。



全部売れるようにうながすと意欲が高まります。



この単元では、具体物が大切です。より本物に近い具体物があることによって、子どもたちの活動も意欲的になります。できるだけ具体物を揃えておくとよいでしょう。

<↑お金やレジスター>



袋に保管



友達と協力して楽しく活動できた充実感をより味わわせるために、作成したものをきちんと保管して返してあげたり、グループの写真を撮ってあげたりするとよいでしょう。

授業づくりのポイント、教師の働きかけ (○ HRT ☆ ALT)

- 外国の店で買い物をするという臨場感を表すために、教室の前面に洋服や帽子の実物や他の品物の絵を掲示する。
- ネイティブな発音に気付かせるために、ALTの口形や発音の仕方に注目させ、発話させる。
- ☆ 買い物に必要な表現に慣れ親しませるために、体を動かしながら発話するフリーズゲームをする。
- 自分たちで作る店については、品物の種類が多く、英語で表現しやすいものがある店に着目させた方が活動しやすい。
- 英語の文字に慣れ親しませるために、外国の本物のコインやチラシを提示する。
- 英語の文字に楽しみながら親しませるために、絵と文字のかかれた品物カードを用意させる。
- 分からない文字を調べるようにするために、和英辞典や図鑑等を用意していく。(子どもにあらかじめ、用意してくるように伝えてもよい。)
- ☆ 買い物に必要な英語が分からないときに、自分なりの方法でALTやHRT、友達に尋ねさせるために、スキットで具体的な手立てを示すようにする。

お客が怒って帰った理由に気付かせるためのスキット

- 例1：わざとぶっきらぼうな表情して対応する。
- 例2：品物を粗末にして渡す。
- 例3：お客を怒らせるような言葉を投げかける。

- 活動ができた喜びや自ら表現できた成就感を味わわせるために、発表の場を設定し、各自の感想を称賛し、次の学習に生かすようにする。

<評価の観点>

- コミュニケーションへの積極性
- 買い物に関する言語や文化への知識・理解
- 方略的能力・社会言語的能力と四技能

1 位置とねらい

1年 6月《ゲーム》

# どうぶつ、だいすき

【1年 くだもの、だいすき】  
・ 果物の英語を使ってALTやHRT、友達と楽しく遊ぶことができる。

・ 動物の名前を使ってALTやHRT、友達と楽しく遊ぶことができる。  
・ 動物の動きをジェスチャーで表したり、鳴き声をまねたりして、動物に関する英語を聞いたり話したりすることができる。

【1年 さんびきのこぶた】  
・ 絵本「さんびきのこぶた」に出てきた動物を使ってゲームをしたり、劇をしたりすることができる。

2 授業計画 (4時間)

(方) 方略的能力, (社) 社会言語的能力

言語材料

子どもの思い

過程	主な学習活動	言語材料, 子どもの思い
意欲をもつ	<p>I 動物の名前を話そう。</p> <p>1 動物の名前を尋ねるスキット1を見る。 ・ 動物園で話をする場面だな。 ・ 好きな動物を聞く英語を使ったよ。</p> <p>2 動物の名前について話し合う。(社) 3 ジェスチャーリズムチャンツをする。 4 マジックボックスを使ってクイズをする。 5 アニマルバスケットをする。</p>	<p>【Skit 1】 A: Let's go to the zoo! H: O.K. What's this? A: It's an elephant. H: What's this? A: It's a lion.</p> <p>・ 動物の英語の学習だ。おもしろそう。</p> <p>サルのポーズは、頭をかくものかと思ったけど、スネラー先生は、お腹をかいたよ。</p>
つかむ	<p>II 動物の動きをしよう。</p> <p>1 動物の名前を尋ねるスキット1を見る。 2 歌を歌う。(「Old MacDonald had a Farm」) 3 アニマルジャンケンをする。 4 新しい表現を獲得するためのスキット2を見る。 ・ キリンという英語が知りたい。(方) 5 カードゲットゲームをする。(方)</p> <p>分からない動物の英語を獲得するために。</p>	<p>【Skit 2】 (カードゲットゲームのやり方を示しながら) A: What's this? H: HRTは、「キリン」の英語が分からないので、ジェスチャーや絵カードを使って、ALTに尋ねるようにする。以下の例で示す。 ① 「首が長い。」ことを表すジェスチャーを示す。 ② 知っている英語を使う。例: yellow ③ 絵カードを示す。 A: Oh, "a giraffe!"</p>
挑戦する・広げる	<p>III 動物の鳴き声をまねしよう。</p> <p>1 歌を歌う。(「Old MacDonald had a Farm」) 2 動物の鳴き声の入ったCDで鳴き声クイズをする。 3 外国の鳴き声を知る。 4 フリーズゲームをする。 5 カードゲットゲームをする。</p> <p>・ この前、ジェスチャーで伝えたよ。 ・ 日本語で言ってみたよ。 ・ 絵を見せたら伝わったよ。(方)</p>	<p>A: I say "Baa-baa." Who am I? H: Sheep. A: That's right.</p> <p>【主な動物の鳴き声】 "chick-chick" (雌鳥) "oink-oink" (ぶた) "quack-quack" (アヒル) "moo-moo" (牛)</p> <p>日本ではアヒルは「ガーガー」で言うけど、外国では「quack quack」って言うんだね。おもしろい。</p>
振り返る	<p>IV 動物の英語を使って遊ぼう。</p> <p>1 フラッシュカードでこれまで出てきた動物の名前を発話する。 2 アニマルジャンケンをする。(方) (社) 3 これまでで楽しかったゲームをする。 4 言えるようになった英語や楽しかったことを発表して、学習を振り返る。</p> <p>【この単元で主に扱ったゲーム活動】 ・ フリーズゲーム ・ カードゲットゲーム ・ アニマルバスケット ・ 鳴き声クイズ ・ アニマルジャンケン</p>	<p>A: What's this? C: A lion. A: What's this? C: A dog. A: What's this? C: A cat.</p> <p>【扱った主な動物】 lion, tiger, cat, dog, mouse, sheep, elephant.</p> <p>・ 日本と外国のライオンの言い方が違うことにびっくりしました。 ・ 外国の動物の鳴き声を知って、楽しかったです。</p>

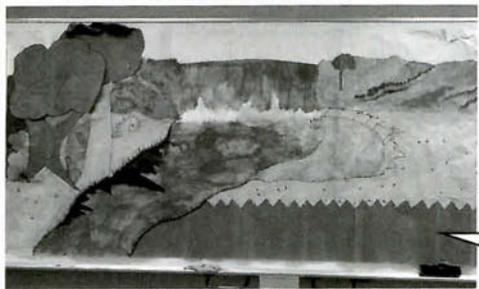
【単元の特性】

子どもたちは動物に日常慣れ親しんでいる。それ故、動きや鳴き声など子どもたちにとって模倣しやすいものが多く、英語を積極的に話し、親しむ態度を育成したり、ALTやHRT、友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりするのに適している。

英語に自然に親しませるために

- 果物の時と違って特に動物を使ってゲームをするときに有効なのは、ジェスチャーができるということです。そこで、「ジェスチャーじゃんけん」や「フリーズゲーム」でジェスチャーしながら英語を発話させることで、子どもたちも楽しんで動物の英語にふれていきます。
- また、マジックボックス（段ボール等にぬいぐるみを入れる。）を使って、触っている動物を、ジェスチャーでヒントを出すようにルールを工夫するとよいでしょう。

板書、教材・教具、ゲーム活動のルール等



【ジェスチャーリズムチャンツ】

音楽に合わせて、ALTと動きを付けながら、楽しく発話する。象なら腕で鼻のまねをして「Elephant!」

臨場感を表すために、動物園の拡大絵を提示。

授業のポイント、教師の働きかけ (○ HRT ☆ ALT)

- 動物の名前を表す英語に注目させ、動物を英語で発話することへの興味をもたせるために、動物園の拡大絵や動物の写真を貼り付けて臨場感を出すようにする。
- 動物の名前を表す英語に慣れ親しみやすくするために身近な動物を扱うようにする。また、知っているようで知らない動物の英語(例: トラ、コアウ、白熊等)も取り上げ、知的好奇心を向上させるようにする。
- ☆ ネイティブの英語に慣れ親しませるためにALTの口形や発音をまねさせる。
- 動物の鳴き声を表す英語により多くふれながら、それらを聞いたたり、話したりすることができるようにするために、視聴覚機器を使ったクイズを取入れたり「Old MacDonald had a farm」を歌わせたりする。

動物の写真やぬいぐるみを飾り、楽しくする。

Old MacDonald Had a Farm (歌詞の一部)

Old MacDonald had a farm, E-I-E-I-O.  
And on this farm he had some chicks, E-I-E-I-O.  
With a "chick chick" here and a "chick chick" there,  
Here a "chick" there a "chick", everywhere a "chick-chick" . . .



【カードゲットゲーム】

【用意する物】

- ・動物カード（5種類程度用意）

【ルール】

- 1 一人2～3枚ずつカードを持たせる。
- 2 子ども同士ジャンケンをさせる。
- 3 勝った方が相手のカードの名前を言えたらカードをもらえる。  
※ 勝った子どもで動物の名前が言えなくてもジェスチャーや特徴を言えれば渡すようにする。
- 4 カードがなくなったら「Card, please.」とALTにもらいに行く。

Here you are.



動物カードはたくさん用意しておくとお便利。

- 分からない表現を自分なりの方法で獲得させるために、ALTやHRT、友達にジェスチャーや絵カードを使って尋ねさせる。
- 子どもたちの発話の意欲を高めさせるために、自分なりの方法でコミュニケーションを継続している子どもを認め、価値付けるようにする。

A: H: Rock, scissors, paper, go!  
(ALT負け、HRTが勝ちの場合)  
A: What's this?  
H: A lion! (Get)

【アニマルジャンケン】のルール

- 1 ALTがいくつかの動物を表す動きを示す。(右写真参照)
- 2 示された動物の動きを練習する。
- 3 ALTが「One, two, three.」とカウントし、「Three.」で示された動きの中から好きな動きをする。
- 4 ALTと同じ動きだったら、その場に座る。(Lose!)
- 5 最後までALTと違う動きをしていたら勝ちとなる。



子どもに親しみがあり、分かりやすいポーズがいいでしょう。今回は「サル」「うさぎ」「ライオン」を取り入れてみました。

- 子どもが意欲的にジェスチャーや発話をしていくように、体全身を使って動きをしている子どもや積極的に発話をしている子どもを称賛していくようにする。
- 活動ができた喜びや自ら表現できた成就感を味わわせるために、発表の場を設定し、各自の感想を称賛し、次の学習に生かすようにする。

評価の観点

- コミュニケーションへの積極性
- 動物に関する言語や文化への知識・理解
- 方略的能力・社会言語的能力と四技能

## IV 実践的コミュニケーション能力一覧表の再構成

5年間の研究の成果を付加し、附属中と連携を図った上で、実践的コミュニケーション能力一覧表を以下のように再構成した。

実践的コミュニケーション能力一覧表(英会話・英語)

学年 学期	小1						中1					
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
聞く 話す 書く 読む	● 実物と合わせて 単語を						● 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく ● 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、大切な部分を ● 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容を ● 質問や依頼などに適切に応じて ● 話し手に聞き返すなどして内容を正しく					
	● 絵や写真と合わせて 単語を						● 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ、正しく発音して ● 聞いたり読んだりしたことについて、問答する ● 聞いたり読んだりしたことについて意見を述べ合う					
	● スキットを通して 簡単な話を						● つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が長くように ● 自分の考えや気持ちなどを聞き手に正しく伝えるように					
	● ジェスチャーをまねて ● 実物・絵を用いて ● シェンチャー 交えて						● 英語で 尋ねる ● 自分なりに表現する ● 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく ● 聞いたり読んだりしたことについてメモをとる					
● 日本語を交えて(補測) ● 知っている語つかの羅で ● 表情 ● 仕草・ジェスチャーで(協力)						● これまでの表現やジェスチャーで ● 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく ● 聞いたり読んだりしたことについて感想や意見などを ● 自分や相手の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように ● 伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように ● 書かれた内容が表現されるように音読する ● 書かれた内容を考えながら黙読する ● 物語や説明文などのあらゆるすじや大切な部分を ● 伝言や手紙などから書き手の意向を理解し、必要に応じて適切に応じて						
● 相手意識 意識						● 場面意識 ● ASLTとの関係を考えて						
● 目的						● 意味のつながりを考慮して ● 論理の一貫性を考慮して						
● 日本語を交えて(補測) ● 知っている語つかの羅で ● 表情 ● 仕草・ジェスチャーで(協力)						● 日本語に置き換えて ● 文脈から推測して ● ディレクトに ● 意味のつながりを考慮して ● 論理の一貫性を考慮して ● 話す上での相手の問題を知って(協力)						
← 体系的学習 →						← 体系的学習 →						
● 体験的学習 ● 英語を使ってまじ く遊ぶ時期 ● 外国の言葉や生活に好奇心をもつ。活動に必要な会話 に慣れる時期(4年生は文字を導入する初年度として、 実践的学習の目的を達成させる時期) ● ゲーム・遊び						● 身に付けた会話表現を生活に役立つ 実践的なものへと深めていく時期 ● 体系的学習 ● 四技能を調和的に身に付ける時期 ● 自然の状況に応じた学習を充実させる時期						
● 自分や身の周りの できごとについての内容						● 自分や身の周りの できごとについての内容 ● 事実関係を伝えたり物事につ いて判断したりした内容 ● 自分や身の周りの できごとについての内容 ● 事実関係を伝えたり物事につ いて判断したりした内容 ● 様々な考えや意見						
● ごっこ活動・劇・鑑賞												

## V 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

〈本年度(5年次)の研究における成果〉

- 子どもたちの発達段階や英語経験年数を踏まえ、コミュニケーション能力を培う授業創造の基本的な考え方を明確に示すことができた。
- 一単位時間における授業の基本的な流れを具体化し、授業中における教師の役割を明確にすることにより、生きたコミュニケーションを楽しむ子どもの育成を目指した授業を構築することができた。

〈シリーズ研究(1~5年次)研究における成果〉

- 子ども一人一人が自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿がこれまで以上にみられるようになってきた。
- これまでの研究内容を付加し、全学年の新授業プランを作成することができた。
- 英会話授業における実践的コミュニケーション能力一覧表を再構成できた。

### 2 研究の課題

- 小学生の発達段階に応じた四技能(「見る」活動との関連も含む)とコミュニケーション能力を今後も追究していくことが大切である。
- 新学習指導要領を踏まえた外国語活動における指導方法の改善も行っていきたい。

#### 《参考文献・資料》

○ 文部省	「中学校学習指導要領解説 外国語編」	(東京書籍 平成11年)
○ 影浦攻著	「新しい時代の小学校指導の原則」	(明治図書 2007年)
○ 文部科学省	「小学校英語活動実践の手引」	(開隆堂 2001年)
○ 大下邦幸著	「コミュニケーション能力を高める英語授業ー理論と実践ー」	(東京書籍 1996年)
○ 高梨庸雄・緑川日出子・和田稔著	「英語コミュニケーションの指導」	(研究社 1995年)
○ M. フィンキアー・ロ・C. プラムフィット著	「言語活動中心の英語教授法-FNアプローチの理論と実際」	(大修館書店 1987年)